

書簡文の指導より

私の授業で提出される作文は、まるで強制された義務をいや／＼かたつけたような感じがいつもいたします。このような作文の山の前に座ると私自身も強制された義務をかたつけているような重い気持ちになつてしまいます。

昨年十一月、ちょうど中学一年生が手紙文の単元にさしかかりましたので、これを機会に楽しく書く態度を身につけて欲しいと願いつつ、次のように授業を進め、また失敗を重ねてしまいました。

使用教科書

新中学国語 一 大修館書店 二四三頁から二五六頁まで

単元のねらい

- 手紙の書き方のきまりについて学ぶ。
- 気軽に手紙を書く態度を身につける。

坂 田 紀美子

○封筒やはがきの使い方になれる。

私は気軽に書く態度を身につけてくれることに重点を置いて、形式にはあまりこだわらないことに決め授業にとりかかりました。

教材

一 教科書 (1)父と子の手紙 永井 隆

(2)手紙の書きかた 永井 誠一

二 国語 一 中学校 日本書院

三 手紙を書く 二六三頁、二六五頁

三 志賀直哉のはがき 一

二、三はプリントして手渡しました。

プリント 二

明君は、去年の十二月まで明星中学校におりましたが、ことしの一月、大原中学校に転校しました。二月の初めに、弟との学校の友だちから、次のような手紙が届きました。

拜啓 寒さきびしいおりから、ますますお元気のことと思ひます。

さて、きみが転校されてから、もうひと月も過ぎてしまいました。あれは、ついこのあいだのことのように思われますが、月日のたつのは、ほんとうに早いものと、しみじみ感じさせられます。

学年の半ばで転校されたのですから、どんなにかつらかったことでしょう。でも、もう親しい友達もできて、愉快に過しておられることと思います。

こちらはみな元気です。このあいだから、放課後た、クラス対抗バレー・ボール大会が開かれています。一年C組に敗れてしまいました。

学級文集の「こだま」が、できあがりしました。みんなで話し合つて、きみにもさし上げることになりましたので、別便でお送りいたしました。お受け取りください。

では、時節柄おからだごたいせつに。

二月一日

小川 明 様

大山 正 一

敬 具

明君、元気かね。このごろの寒さは、ことにひどくて、けさも、水道の水が凍った。そちらは、どうだろうか。

寒さを忘れるために、ぼくたちは、クラス対抗のバレー・ボールをやっている。

きのう、ぼくの組はC組と対戦した。初めの一セットを取つて調子がよかったが、相手のネット・プレーにひっかかって、どうとう二

対一で敗れてしまった。きみがいつものセンターにがんばつていたら、こんなことにはならなかつたらうと、みんなで悔しがった。一回戦でやられたのだから、残念でたまらない。

図書館に行つても、きみのように相談にのつてくれる者がいないので、なんだかつまらない。

それから、学級文集の「こだま」ね。きみがこちらにいたときに企画したのだが、やつとできあがった。せひ、きみにも読んでもらいたいというので、委員から送ることになっている。倉田先生にも書いてもらつたし、ぼくの青木海岸の潮干狩りの記事もはいつている。きみは、きつとあのときのことを思い出してくれるだろう。遠慮のない感想を送つてくれたまえ。

そちらの学校の様子も、ぜひ聞きたいものだ。これを書いているそばで、母が、きみによろしくつて。では元気だね。さよりなら。

二月一日

小川 明 君

宮 坂 登

授業の進め方

第一時限

○手紙文に対する生徒の経験を聞く。

いつ。誰に。どんな内容で。これに対しては、旅行先から肉親へ、また友人へ。遠くの親類へ。と言うのが圧倒的でした。友人に書く手紙は楽しいが、先生などに出すのは苦痛であるようです。

○プリント二を読んで大山君と宮坂君の性格を比較してみる。大山君はまじめで、きちょうめんな人。宮坂君は、親しみやすく明るい人。とはぼ的確にとらえています。

この比較によつて、手紙は書いた人の個性が、いきいきと表われ

ていることが大切であるとの結論に導きました。

第二時限

○永井親子の手紙文の理解。「この子を残して」の一部分朗読。生徒は誠一君の文章が上手であることに感心し、同時に不服を示す。このような手紙を書かされてはたまらないと早くも予防線をはり始める。そのことが気になっては困るので書かせないことを約束し、「この子を残して」を朗読する。とたんに興味と活気に満ちた教室となりました。

第三時限

○手紙文の書きかたの理解
教科書の説明文を黙読し、次のようにまとめてみる。そして各項目で最も親しい言葉を発表させる。

一 前文

- (1) 頭語
- (2) 時候のあいさつ
- (3) 安否のあいさつ

二 本文

手紙文の種類にふれる。

三 末文

- (1) 結びのことは
- (2) 留書

(追伸)

四 後付

- (1) 日付
- (2) 署名
- (3) 宛名・敬称
- (4) 脇付

五 追伸

三と四は書く位置を練習させました。脇付のことにふれましたが、

ほとんど興味を示さずなじめないようでした。

第四時限

○前の時間の復習をしながら、プリント二にあてはめてみる。

○封筒の書きかたを練習する。

○手紙文とはがきの文を比較してみる。

まとめ

手紙は字で書いた会話であること。あまり形式にこだわらず、まず、真心をこめて書くことが一番大切であること。このような結論を話し合わせました。

この授業の後、体を悪くして休職となった私のところに、このクラスから、ばらばらに見舞状が三〇通届きました。これらの手紙には、授業中に示す、あのさまざまな個性は、みじんも感ぜられず、見事な失敗を知らされました。私は、また、いつもの作文を読んでいるような寂しい気持ちになりました。最も成積のよいMさんのものが次のとおりです。

坂田先生、寒さがきびしくなりましたが、ご病気のぐあいはいかがですか。

私達も元気で毎日一生けんめい勉強しています。

私達は始めS先生、I先生、K先生の三人の先生方に教えていただいていたのですが、今はI先生だけに教えていただいています。

私は国語の時間になるといつも、先生のことや、先生に教えていただいていたところのことを思い出します。今はとても寂しい気持です。先生は今ごろどうしていらっしゃるのでしょうか。

病院で一人寂しい日をお過しのことでしょう。お見舞に行きたい

のですが、遠いし、学校もあるのでいけません。でも私達は遠い所からでも、先生がお元気になって、又私達が勉強を教えていただける日が一日も早く来ますようお願いいたしております。

くれぐれもお体を大切にござよう下さい。

十二月十一日

洞 口 和 子

坂田先生へ

他の手紙は、これと大同小異でした。表記の方法は新鮮味に溢れ、「さようなら」が上で、「先生へ」が下であったりしますが、書いてある言葉を整理してみますと、三〇通中

前文	頭語	御拜啓	1
時候の挨拶	坂田先生		29
相手と自分の安否			4
末文	「むすびの言葉」		22
	自愛の挨拶		10
	留書さようなら		22
後付	日付		21
	署名		24
	宛名		21
追伸	脇付		0
			0

この結果を見ますと、拝啓とか、みもとにととか、親しみにくい表現は別として、大まかな形式はつかんでいようです。ただ形式に

気を取られて、内容はみなお義理で書いた感じで、がっかりさせられました。この授業の結果を見て、私は次のように反省いたしました。

失敗の原因

- 相変わらず説得調で、おしつけがましい授業であったこと。
- 生徒がすぐ「また、書かせられる。」という感じを抱いたこと。
- それを気にして、実際に書かせ、個々に当たって指導する親切に欠けていたこと。

○ 初めの目的と違って、やはり形式の方に授業の中心があったこと、などです。
失敗の原因は探せますが、さて次からどのようにやればよいかと考えてみますと、よい方法が浮かびません。書くことの教育の難しさを痛感するとともに、私にとっではまだまだ暗中模索であることも痛感いたしました。

(横浜市立久里浜中学校教諭)